

令和5年度
埼玉学園大学大学院
心理学研究科 **FD** 活動報告書

令和6年5月8日
心理学研究科
F D 委員会

目次

1	はじめに.....	1
2	FD活動に関する基本方針.....	2
2-1	FD委員会の委員構成.....	2
2-2	FD委員会の開催日及び議題.....	2
3	心理学研究科教育体制.....	3
3-1	教育方針（ポリシー）.....	3
3-2	研究科長による3ポリシーの検証.....	4
3-3	教育実施体制.....	5
3-3-1	専任教員.....	5
3-3-2	客員教員/兼任教員.....	5
3-3-3	担当授業科目・研究指導.....	6
3-3-4	カリキュラム.....	7
3-3-5	時間割表.....	8
3-3-6	院生数.....	9
3-3-7	研究題目一覧.....	9
3-3-8	履修状況.....	10
3-3-9	定期試験.....	11
3-3-10	実習について.....	12
4	授業アンケート・授業報告.....	13
4-1	授業アンケート実施概要.....	13
4-2	教員の授業報告.....	13
5	研究発表会及び意見交換会.....	43
5-1	研究発表会.....	43
5-2	大学院専任教員と大学院生による意見交換会.....	43
5-3	大学院専任教員と客員教員による意見交換会.....	43
6	論文審査について.....	44
6-1	修士論文中間報告会・構想発表会.....	44
6-2	学位論文発表会及び最終試験.....	45
7	おわりに.....	45
参考資料1	埼玉学園大学大学院FD委員会規程.....	46
参考資料2	学生向け授業に関するアンケート実施のお願い.....	47
参考資料3	授業についてのアンケート（講義科目、研究指導科目）.....	48
参考資料4	教員の授業報告.....	49
参考資料5	中間報告会の振り返り.....	50

1 はじめに

埼玉学園大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻は、平成 26 年度に臨床心理士養成のために開設されました。その目的は、高度かつ実践的な臨床心理学の専門知識を習得し、対人技術能力を培い、教育、福祉及び医療などの領域において、国民の生涯にわたる持続的な福祉と心の健康を支えることに寄与するところであり、本学の教育理念である「広く社会に貢献できる人材を養成」に沿うものである。

なお、現在は国家資格である公認心理師の養成プログラムに対応したカリキュラムを開講しています。

本心理学研究科における大学院教育が当初の教育目標を十分達成されたかどうかを検証することと、もし不十分な点があれば早急に改善を図り、さらに本研究科教育を充実したものにするために、埼玉学園大学大学院心理学研究科FD活動報告書を作成している。

2 FD活動に関する基本方針

心理学研究科におけるFD委員会の基本方針と役割、FD委員会規程については、当初の通りで変更はない。
(参考資料1) 令和5年度のFD委員会の構成員は、以下の通りである。

2-1 FD委員会の委員構成

委員等	所属・職名	氏名
委員長	FD委員長	大川 一郎
委員	心理学研究科教授	安崎 文子
委員	心理学研究科教授	古澤 照幸
委員	心理学研究科准教授	川久保 惇
委員	心理学研究科講師	泉水 紀彦
委員	心理学研究科客員教授	柴田 勲

2-2 FD委員会の開催日及び議題

令和5年度に開催された委員会の日時と議題は以下の通りである。

【令和5年度 FD委員会の開催日及び議題】

開催日	議題
令和5年 6月14日	(1) 令和4年度FD活動報告書について
令和5年 7月12日	(1) 令和5年度研究発表会の実施について (2) 令和5年度教育研究に関する意見交換会の実施について
令和5年 10月11日	(1) 令和5年度研究発表会の報告について
令和6年 1月10日	(1) 令和5年度意見交換会の報告について
令和6年 2月14日	(1) 令和6年度のFD活動について

3 心理学研究科教育体制

3-1 教育方針（ポリシー）

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心と行動についての深い理解と科学的思考を身につけ、臨床的態度と専門的技法をもって人々に心理的援助のできる人材の養成を目的としています。このため、学位授与の要件としては、学生に次のような能力の修得を求めます。

- ① 学生が臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床的実践力を修得していること。
- ② さらに、実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と理論的洞察を支えるための研究スキルが備わっていること。

これらの観点を踏まえて、以下の要件を満たしているときは、修了を認め、修士（臨床心理学）の学位を授与します。

大学院に2年以上在学し、履修要件に定める授業科目を履修し、専門科目35単位（必修25単位を含む）以上、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」各4単位の合計43単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。本研究科は、文部科学省・厚生労働省の公認心理師法の定める必要科目を履修することにより、公認心理師の受験資格が得られます。

また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院となっており、学位の取得により、臨床心理士の受験資格が得られます。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として、個人及び組織・地域からの援助希求に対して高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成します。

具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域によって編成されます。

教育課程編成の目的を効果的に実現するために、教育方法として、通常の講義形式のほか、事例研究方式、課題討論方式、ロールプレイ、グループワークを含む模擬実習など、具体的かつ実践的な体験学習を多く組み入れます。

なお、カリキュラム編成においては、文部科学省・厚生労働省の定める公認心理師法の必要科目を履修し、達成すべき到達目標を実現するように配置されています。さらに、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による指定要件を踏まえて臨床心理士養成指定大学院一種の認定を受けています。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心の問題に対応する実践的な人材として高い専門性と臨床的立場でのコミュニケーション能力および問題解決能力を重視する教育を目指します。本研究科の修了生には、公認心理師や臨床心理士としての活躍が期待されており、入学生には、学修成果の達成に必要な基礎的な知識・能力と明確な目的意識が求められます。

このため、本研究科では、次のような方法で入学者の選抜を行います。

【選抜試験】

- ① 入学後の研究課題と問題意識を明らかにした研究計画書を提出させる。
- ② 設置している科目の履修に必要な基礎知識を量るため、専門科目（心理学）と英語（Ⅰ期入試）及び専門科目（心理学）と論述（Ⅱ期入試）に関する筆記試験を行う。
- ③ 書類選考及び口述試験により、公認心理師や臨床心理士としての人間的資質を確認する。

本研究科は、研究奨励目的に成績優秀な学生に、選考により最大2年間にわたり、返還のない奨学金制度を備えている。

3-2 研究科長による3ポリシーの検証

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科は、心の健康を支援する人材の養成を目的として、人間存在に対する深い理解と科学的思考を身につけ、心理支援者として期待される臨床的態度と専門的技法の習得を目指している。より具体的には、①公認心理師資格試験と臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床実践力を修得していること、②実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と論理的洞察を支える研究スキルが備わっていることの二点である。

上記目標の達成は、学内・学外の臨床実習と平行して、特別課題研究の修士論文作成にも取り組む必要があることから、学生にとって心身および時間的負担が大きい課題である。そのための指導体制として、学生一人ひとりに集団指導による複数の臨床指導教員と、主・副の研究指導教員を置き、それぞれ連携協力しながら指導を行っている。すなわち、一人の学生に対して複数の教員が責任をもってかわり、心身の状態に考慮しながら教育指導にあたることで、院生の学修を支援している。令和5年度の本研究科修了生は5名であったが、全員が臨床実習と修士論文作成に意欲をもって取り組み、高い水準で成果を上げたと評価することができる。修了後の進路としても、児童発達支援領域での常勤あるいは非常勤による就職を果たしており、質の高い心理支援者を輩出しうる研究科としての実績を残している。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成している。具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域である。すなわち、十分な臨床実践力と科学的思考を備えた、個人・集団・社会の要請に応えうる心理支援者を養成するための体系的な教育課程を編成している。

なお、本研究科は、公認心理師ならびに臨床心理士養成の指定科目に対応しており、基礎から応用へと学修を積み上げ、かつ多様な心理支援領域への展開を可能とすべく科目を配置している。令和4年度の修了生は、いずれもそれぞれが希望する領域へと就職しており、人の心と社会に貢献する人材を輩出しうる教育内容を備えていることが示されている。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科は、公認心理師、臨床心理士として心の健康を支援する人材の養成を目的としている。そのため、入学生には学修成果の達成に必要な基礎的知識や論理的思考力、および明確な目的意識と学修に取り組む準備状態としての心身の安定性を求めており、次のような方法で入学者の選抜を行っている。

一般選抜入学試験（一般学生・社会人・外国人留学生）では、①研究計画書の提出、②専門科目（心理学）と英語に関する筆記試験、③心理支援者としての人間的資質および適性について書類選考及び口述試験による確認を行う。令和5年度に一般選抜で入学した学生は6名である。いずれも入学後に意欲的に学修に臨み、確実に学修プロセスを進めていることから、一般選抜入学試験は適正に実施されたと評価することができる。

（大川 一郎・佐々木 美恵）

3-3 教育実施体制

令和5年度は、専任教員及び客員教員を併せて、17名の教員で授業・研究指導を行った。それぞれの詳細は、次の通りである。

3-3-1 専任教員

No.	氏名	職位
1	大川 一郎	教授
2	藤枝 静暁	教授
3	安崎 文子	教授
4	佐々木美恵	教授
5	羽鳥 健司	教授
6	古澤 照幸	教授
7	遠藤 寛子	准教授
8	川久保 惇	准教授
9	泉水 紀彦	准教授
10	米村 朋子	准教授
11	伊里 綾子	講師
12	佐藤 洋輔	講師
13	中谷 隆子	講師

合計 13 名

3-3-2 客員教員/兼任教員

No.	氏名	職位
1	柴田 勲	客員教授
2	山本 晴義	客員教授
3	古曳 牧人	客員准教授
4	杉山 雅宏	非常勤講師

合計 4 名

3-3-3 担当授業科目・研究指導

各教員の担当授業は、以下の通りである。

埼玉学園大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻修士課程 授業科目及び担当教員

科目区分	科目名	担当教員
基幹科目群	臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎
	臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司
	臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵
	臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子
	臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝 静暁/伊里 綾子
	臨床心理基礎実習Ⅱ	佐々木美恵/大川 一郎
	心理実践実習A	羽鳥 健司/伊里 綾子/ 遠藤 寛子/大川 一郎/ 佐々木美恵/佐藤 洋輔/ 泉水 紀彦/中谷 隆子/ 藤枝 静暁
	心理実践実習B	佐藤 洋輔/中谷 隆子
	心理実践実習C	—
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習D）	羽鳥 健司/泉水 紀彦
	臨床心理実習Ⅱ	中谷 隆子/大川 一郎
基礎科目群	データ解析法特論	米村 朋子
	臨床心理学研究法特論	佐藤 洋輔
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	藤枝 静暁
	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	大川 一郎
	人間関係学特論	古澤 照幸
発展科目群	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	山本 晴義
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲
	犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人
	健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	遠藤 寛子
	心理療法特論	羽鳥 健司
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子
	学校臨床心理学特論	中谷 隆子
	グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	川久保 惇	
研究指導	特別課題研究Ⅰ・Ⅱ	大川 一郎/藤枝 静暁/ 安崎 文子/佐々木美恵/ 羽鳥 健司/古澤 照幸/ 遠藤 寛子/杉山 雅宏

3-3-4 カリキュラム

本研究科の教育課程の具体的な目標は、高度かつ実践的な心理学の専門知識の習得と対人技術能力の育成にある。より具体的にはさまざまな心理的問題を抱える人に深く関わる共感能力と質の高いコミュニケーション能力を有し、そうした資源を駆使して、個人及び組織・地域からの援助希求に対して個人的な心理支援とともに組織的で協働的な心理的支援ができる公認心理師、臨床心理士の養成である。

これらの目的を達成するために、「基幹科目群」、「基礎科目群」、「発展科目群」、「研究指導」の4科目群で教育課程を編成している。具体的な編成は以下の通りである。

【教育課程の概要 心理学研究科 修士課程】

学位又は称号	修士（心理学）	学位又は研究科の分野	心理学関係	
卒業要件及び履修方法			授業時間等	
必修科目 33 単位を含め、43 単位以上を修得し、かつ、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。 心理実践実習 A・B・C および臨床心理実習 I（心理実践実習 D）の総時間は 450 時間以上とする。			1 学年の学期区分	2 学期
			1 学期の授業期間	15 週
			1 時限の授業時間	90 分

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習
基幹科目群	臨床心理学特論 I	1	2			○		
	臨床心理学特論 II	1	2			○		
	臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践）	1	2			○		
	臨床心理面接特論 II	1	2			○		
	臨床心理査定演習 I（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2				○	
	臨床心理査定演習 II	1	2				○	
	臨床心理基礎実習 I	1	1					○
	臨床心理基礎実習 II	1	1					○
	心理実践実習 A	1	2					○
	心理実践実習 B	1	2					○
	心理実践実習 C	2	1					○
	臨床心理実習 I（心理実践実習 D）	1・2	5					○
臨床心理実習 II	2	1					○	
基礎科目群	データ解析法特論	1・2		2		○		
	臨床心理学研究法特論	1・2		2		○		
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	人間関係学特論	1・2		2		○		
発展科目群	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	1・2		2		○		
	心理療法特論	1・2		2		○		
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	学校臨床心理学特論	1・2		2		○		
	グループ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2		2		○		
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○			
研究指導	特別課題研究 I	1	4				○	
	特別課題研究 II	2	4				○	

3 - 3 - 5 時間割表

令和5年度 埼玉学園大学大学院 心理学研究科時間割表

【春期】

時限	月				火				水				木				金			
	科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室	
1限 9:00 ～ 10:30					臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	佐々木美恵	研修員室						臨床心理基礎実習Ⅰ	伊里 綾子 藤枝 静暁	研修員室		教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	藤枝 静暁	研修員室	
2限 10:40 ～ 12:10	臨床心理学研究法特論	佐藤 洋輔	研修員室		障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	安崎 文子	研修員室						臨床心理基礎実習Ⅰ	伊里 綾子 藤枝 静暁	研修員室					
3限 13:00 ～ 14:30	犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	古曳 敦人	研修員室		臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎	研修員室						臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	羽鳥 健司	研修員室					
4限 14:40 ～ 16:10	学校臨床心理学特論	中谷 隆子	研修員室										データ解析法特論	米村 朋子	505					
5限 16:20 ～ 17:50																				
6限 18:10 ～ 19:40																				
7限 19:45 ～ 21:15																				

- 1) 「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。
 2) 「心理実践実習A」「心理実践実習B」「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)」「臨床心理実習Ⅱ」は、時間割外集中科目として適宜実施する。

【秋期】

時限	月				火				水				木				金			
	科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室	
1限 9:00 ～ 10:30	産業組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	川久保 惇	研修員室						精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	柴田 勲	研修員室		臨床心理基礎実習Ⅱ	大川 一郎 佐々木美恵	研修員室					
2限 10:40 ～ 12:10	人間関係学特論	古澤 照幸	研修員室		グループ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	藤枝 静暁	研修員室		臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	研修員室		臨床心理基礎実習Ⅱ	大川 一郎 佐々木美恵	研修員室					
3限 13:00 ～ 14:30					発達心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	大川 一郎	研修員室						臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦	研修員室					
4限 14:40 ～ 16:10					臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	研修員室						心理療法特論	羽鳥 健司	研修員室					
5限 16:20 ～ 17:50													健康心理実践特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	遠藤 寛子	研修員室					
6限 18:10 ～ 19:40																				
7限 19:45 ～ 21:15																				

- 1) 「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。
 2) 「心理実践実習A」「心理実践実習B」「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)」「臨床心理実習Ⅱ」は、時間割外集中科目として適宜実施する。

集中講義

科目名	担当者	教室	日	程
心身医学特論	山本 晴義	研修員室	10/20、11/10・17・24、12/1・8・15の3・4時限日、12/22の3時限日	

3-3-6 院生数

今年度（令和5年5月1日現在）本学大学院に在籍する院生の詳細は、以下の通りである

総数、入試形態別人数、年齢別人数、男女別人数

① 総数 11名

② 入試形態別人数（名）

	一般選抜	学内選抜
修士課程1年	5	1
修士課程2年	4	1

③ 年齢別人数（名）

	22歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～
修士課程1年	5	-	-	-	1
修士課程2年	3	1	-	1	-

④ 男女別人数（名）

	男性	女性
修士課程1年	3	3
修士課程2年	2	3

3-3-7 研究題目一覧

<修士課程1年>

- ・筆記開示法を用いたピアサポート
- ・アイデンティティ形成における自己の多面性
～自己の多面性への動機および捉え方に注目して～
- ・感情調整の学習介入による子どものレジリエンス強化の効果について
- ・SNSと対面時の各場面でのコミュニケーションにおける不安感
- ・評価懸念と自尊感情の関連に自己開示の深さが与える影響
- ・コロナ禍における不登校児の新たな居場所と支援法の在り方に関する検討

<修士課程2年>

- ・強み心理教育が高学年児童の心の健康に及ぼす効果の検討
—子どもが認識する親からの強みへの注目に着目して—
- ・就職不安への適応プロセス及び就職活動のあり方に関する質的検討
—文学部系大学生のふり返りを通して—
- ・社交不安傾向の大学生の失敗観とコストバイアス、安全確保行動の関連
- ・外国人中学生の学校適応に至るプロセスと関連要因の解明
- ・大学生のデイリーハッスル水準の対人ストレスに対する利益の筆記の効果

3-3-8 履修状況

履修状況及び定期試験実施方法は、次の通りである。

【春期】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎	6
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司	6
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵	6
臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝 静暁/伊里 綾子	6
データ解析法特論	米村 朋子	6
臨床心理学研究法特論	佐藤 洋輔	6
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	藤枝 静暁	6
犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人	6
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子	6
学校臨床心理学特論	中谷 隆子	6

【秋期】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	6
臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦	6
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	6
臨床心理基礎実習Ⅱ	佐々木美恵/大川 一郎	6
発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	大川 一郎	6
人間関係学特論	古澤 照幸	2
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	山本 晴義	6
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲	6
健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	遠藤 寛子	6
心理療法特論	羽鳥 健司	6
グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁	6
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	川久保 惇	6

【通年】

科目名	担当者	受講者数
心理実践実習A	羽鳥 健司/伊里 綾子/ 遠藤 寛子/大川 一郎/ 佐々木美恵/佐藤 洋輔/ 泉水 紀彦/中谷 隆子/ 藤枝 静暁	6
心理実践実習B	佐藤 洋輔/中谷 隆子	6
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	泉水 紀彦/羽鳥 健司	5
臨床心理実習Ⅱ	中谷 隆子/大川 一郎	5
特別課題研究Ⅰ	藤枝 静暁	3
特別課題研究Ⅱ	大川 一郎	1
	藤枝 静暁	3
	羽鳥 健司	1

3-3-9 定期試験

【春期】

科目名	担当者	試験内容
臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎	レポート
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司	レポート
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵	レポート
データ解析法特論	米村 朋子	レポート
臨床心理学研究法特論	佐藤 洋輔	レポート
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	藤枝 静暁	レポート
犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人	レポート
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子	レポート
学校臨床心理学特論	中谷 隆子	レポート

【秋期】

科目名	担当者	定期試験
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	筆記試験
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲	筆記試験
臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦	レポート
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	レポート
発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	大川 一郎	レポート
人間関係学特論	古澤 照幸	レポート
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	山本 晴義	レポート
健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	遠藤 寛子	レポート
心理療法特論	羽鳥 健司	レポート
グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁	レポート

3-3-10 実習について

実習については、2年次の履修科目である「臨床心理実習Ⅱ」の学外実習を視野に置きながら、1年次の「臨床心理基礎実習Ⅰ(心理実践実習)」の課外ワークとして、「埼玉学園大学臨床心理カウンセリングセンター(以下カウンセリングセンターとする)」での学内実習と学外の保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設において、見学等による実習を行った。

カウンセリングセンターでは、受付業務の研修を行い、相談事例のケースマネジメントを学ぶ。また、相談員とスーパービジョン契約を結び、学習状況によって「可」と判断された場合は担当事例の面接陪席、相談員の補助などを担当し、それに対する継続的なスーパービジョンを受けることにより、事例担当能力を習得する。その技能習得のため、毎週水曜日夕方に実施される受理会議や事例検討会への参加を義務づけた。

学外実習では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野について臨床心理士が在職する教育・福祉・医療関係の各施設見学とケースワーク等にかかわる研修実習を行った。実習は、下表の12箇所で行われた。これらの活動については、「埼玉学園大学臨床心理学研究」第9巻の活動報告として掲載されている。

【臨床心理実習先一覧】

分野	実習施設
保健医療	独立行政法人労働者健康安全機構横浜労災病院メンタルヘルスセンター ひがメンタルクリニック 医療法人片山会かたやまクリニック 川口市立医療センター
福祉	荒川区立心身障害者福祉センター ハビー大宮桜木町2丁目教室 ハビー大宮桜木町4丁目教室 ハビー大宮大栄橋教室 社会福祉法人慈徳院 こどもの心のケアハウス嵐山学園 児童養護施設 埼玉育児院 児童発達支援・放課後等デイサービス Moi! 東所沢駅前教室
教育	川口市立教育研究所 朝霞市子ども相談室 志木市立教育サポートセンター 越谷市教育委員会学校教育部教育センター
司法・犯罪	さいたま保護観察所
産業・労働	T-PEC 株式会社 株式会社アドバンテッジリスクマネジメントアドバンテッジ相談センター

4 授業アンケート・授業報告

4-1 授業アンケート実施概要

令和5年度春期における授業を対象として7月に、秋期における授業を対象として12月に、院生への授業アンケートを実施した。対象科目は2名以上の講義科目である。

実施時期

春学期：令和5年6月26日（月）～7月7日（金）

秋学期：令和5年12月4日（月）～12月15日（金）

実施方法

春学期・秋学期ともに、科目担当者がアンケート用紙を配布（参考資料2、3）、実施した。回答形式は、設問に対する自由記述式としている。今年度秋期より、回答用紙の回収については、Formsを用いて回収し、事務に提出することとした。

回答学生数

春学期：アンケート回収数60／履修者数（延べ人数）60（回収率100%）

秋学期：アンケート回収数68／履修者数（延べ人数）36（回収率53%）

実施結果

結果は次項からの記載内容の通りであるが、全般的にきわめて満足の良い結果を得ることができた。授業アンケート用紙は参考資料として掲載している。

4-2 教員の授業報告

教員の授業報告は、担当した科目ごとについての教員による自己評価を行ったものである。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 大川 一郎

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理学特論	春期	6	<ol style="list-style-type: none"> この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> 大学院修了必須科目のため（複数回答） これから施設内外の実習を行うにあたって必要な知識であると考えたから 現在の臨床心理学のトピックなどを学ぶため この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 <ul style="list-style-type: none"> 生涯を通じた発達課題の理解を深めることができ、研究の際の基礎的な知見を深めることができた。 研究をする上での新たな視点を得た 研究をするにあたり、マクロ/ミクロの視点の大切さを感じた。一つのことに対して研究を行っている、つい目先のものにばかり注目してしまいがちですが、大きな枠組みから捉えた時の考え方も取り入れて検討していこうと考えます。 研究で主に青年期を対象にしたいと考えており、青年期が対象ということは青年期だけを見れば良いということではなく、時代に合わせた背景や発達課題を理解して初めて研究に深みが出るのだと感じた。 これまで、Webで論文を探すのに時間がかかっていたが、AIを使えば簡単に論文をピックアップし、サマリーを作ってくれるということを講義内で知り、参考になりました。 あまりAIの有用性や、PCのソフトやアプリケーションの実際の使い方等を教えてくださる先生はいらっしゃらないのですごく参考になりました。 臨床心理学から見た現在の社会の問題点などを取り上げていただけた為、修論の問題広い視点からより深く捉えられるようになった。 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> 学級崩壊や発達課題等、多くの映像によって、非常に心に残る授業となりました キーワードごとに関連する映像を見せていただいたことで、よりリアルにその課題について考えることができたように思います。 時事問題をタイムリーに扱ってくださったので、今何が注目されているのか、問題視されているのかを感じ取ることができ、いろいろな問題に意識を向けることができました。 上記のような利点に加えて、研究ツールの紹介などもしていただけただけ、修論執筆に必要な情報収集の効率が向上した。 満足できた（複数回答） この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> 授業で登場したような個人の発達課題、学校運営の悩み、不登校や非行、そういった方とのカウンセリング・心理臨床場面を想定した、学習の機会を希望します DVDを使用した講義は実際の場面をみることでより深い理解に繋がりました。感想カードを出している人、いない人で差がないことに関しては行う意義に疑問を感じた。授業の繋がりをもう少し明確にしていただけると理解しやすい。 特になし（複数回答） 	<p>生涯発達の視点から、乳幼児期から老年期にいたるまでの発達の理論を紹介した、また、現代社会において生じているさまざまな臨床上のトピックについて、その機序、対応等も含めて情報提供をし、時に関連する動画・DVD等の視聴も行い、意見交換をおこなった。授業の最後には、授業内容についての振り返りと定着のためにミニレポートの提出を求め、さらに、その内容について、次週、適宜コメントをおこなった。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 大川 一郎

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
発達心理学特論	秋期	6	<ol style="list-style-type: none"> この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> 必修科目だから 公認心理師カリキュラムに含まれる科目であるため この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 <ul style="list-style-type: none"> 研究というよりも、臨床場面においての見立てや各々の支援の優先度など多角的視点を得ることができた 研究には直接関連はしなかった。今後の研究において、支援策などを打ち出していくことが求められた際に、講義で学んだ内容を踏まえて考えていきたい。 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> 満足できた（複数回答） この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> 特になし（複数回答） 	生涯発達の視点から、乳幼児期から老年期にいたるまでの発達の理論を紹介した、また、現代社会において生じているさまざまな発達上のトピックについて、その機序、対応等も含めて情報提供をし、意見交換をおこなった。授業の最後には、授業内容についての振り返りと定着のためにミニレポートの提出を求め、さらに、その内容について、次週、適宜コメントをおこなった。
臨床心理基礎実習Ⅱ	秋期	6	<p>※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> インテーク面接から治療契約までの一連のプロセスについて、その方法と留意点を理解し、説明することができる。 ケース記録を適切に作成し、事例検討資料として整えることができる。 アセスメントとケースの構造化について、その方法と留意点を理解し、説明することができる。 事例検討において、臨床心理学ならびに心理療法の理論に基づいて、自らの考えを述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心理面接の一連のプロセス（インテーク、アセスメント、治療契約、面接記録作成）について、教員の実際的手法を織り交ぜながら実践的に指導することを意識した。 臨床実践における各自の課題を明確にし、学内外実習への導入となるような指導を心がけた。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 大川 一郎

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
特別課題研究Ⅰ	秋期	1	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・各自の研究テーマに即した文献検索が適切にできる ・各自の研究テーマを内外の先行研究と関連づけて、深めることができる ・各自の研究テーマに即した方法論を展開できる ・各自の研究テーマに即した研究計画を作成、実施することができる ・各自の研究テーマについて、簡潔明瞭にプレゼンテーションを行うことができる	1年間に渡り、修士論文の完成に向けて、問題の設定、文献研究、目的の設定、方法、実施、分析、論文としてのまとめ等について、個別の指導をおこなった。課外での指導も行った。
特別課題研究Ⅱ	秋期	1	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・各自の研究テーマに即した文献検索が適切にできる ・各自の研究テーマを内外の先行研究と関連づけて、深めることができる ・各自の研究テーマに即した方法論を展開できる ・各自の研究テーマに即した研究計画を作成、実施することができる ・各自の研究テーマについて、簡潔明瞭にプレゼンテーションを行うことができる	1年間に渡り、修士論文の完成に向けて、問題の設定、文献研究、目的の設定、方法、実施、分析、論文としてのまとめ等について、個別の指導をおこなった。課外での指導も行った。当該学生は、無事修士論文を執筆、提出し、無事、合格となった。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 羽鳥 健司

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理面接特論 I	春期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師資格指定科目だったため。(複数回答) ・基礎的な面接な技法などを学び、臨床に活かしたいと考えたため。 ・これから施設内外の実習を行うにあたって必要な知識だと考えたため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践を見据えることができた (複数回答) ・研究したいと考えている精神疾患傾向にどのようなアプローチが有効であるか等学ぶことができた。 ・さまざまな心理療法の概念、方法、論点を学ぶことができ、先行論文を研究する上で役立ちました。 ・臨床家として大変役に立ちました。面接法の概要だけでなく、手順や具体例を先生の経験を元に話してくださり大変ためになりました。今後自分のオリエンテーションを決める際の参考にしたいと思います。 ・修論を書く上での具体的な構成を知ることができ、また各理論を改めて復習する機会となりました。 ・心理的な技法の解説だけでなく、研究法やよい論文の流れなどについても解説してくださったので、修士論文作成の上で非常に参考になりました。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足できた (複数回答) ・先生が得意とされている CBT など、多くの技法を学ぶことができた。知識→事例の順番で展開されていくため、わかりやすい授業構成であるように感じた。 ・院生の発表と先生の論評・批評から多くを学ぶことができ、カウンセリング理論として役立ちました。 ・個人的にはもっと予習復習等で予備知識に自信がある状態にしてから、先生とより有意義な時間にすれば良かったと思うほどでした。 ・技法の勉強は、参考書やマニュアルをベースにしか行ってこなかった為、実際の臨床現場で活躍されている先生の体験談をたくさんお聞きすることができてとても参考になりました。 ・先生のお話がとても興味深く参考になるものだっただけに、尚更院生同士でのディスカッションがうまく行えなかったことが唯一悔やまれます。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各療法に係る面接 (カウンセリング) の実際と論評を、もう少し文献を通して結構なので学びたいと思いました。(精神分析や家族療法など) ・各理論に対してさらにかみ砕いてお話下さるのは、院生の発表をただ聞くよりもとても勉強になった。事例があると、具体性が増し、理論と実際の技法の使用方法を結び付けやすいのかなと思った。 ・特になし (複数回答) 	<p>現在、我が国で使用されている主要な心理療法だけでなく、歴史的に重要な位置にある心理療法も含めて、最も重要かつ基礎的な土台を網羅的に習得できるようにした。また、理論的なことだけでなく、理論が実際の現場でどのように扱われているのかを理解できるようにすることを心掛けた。そのために、各理論を使った事例論文を読解することに加え、私自身のこれまでの心理臨床の経験を踏まえて、現場での運用方法をイメージできるように、具体的な話を伝えられるよう心掛けた。</p> <p>大学院での専門教育であることから履修者数が少なくなることはやむを得ないことであり、個人が特定されやすい状況から今回のアンケートのフィードバックがポジティブに偏ってしまうことは否めないが、概ね受講生たちの要望に応えられていたものと考えられる。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 羽鳥 健司

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心理療法特論	秋期	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・必修科目だから 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・研究よりも CBT の実践的内容をモデルとロールプレイを通してながら学ぶことができた 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足できた 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし 	<p>シラバスで予告してある通り、本講義では代表的な心理療法の一つである認知行動療法(CBT)に焦点を当てて、CBT を C1 に実際に提供する際に最も重要かつ基礎的であるが、独学では習得できない必要不可欠な部分を身につけさせることを目的とした。理論に触れることは最小限に留め、実際の CBT の運用方法について、教員が担当した事例を基に、関わり方や各技法のモデルを教員が提示し、受講生が模倣するという手続きを繰り返すことで、反復的に学習させるよう心掛けた。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 羽鳥 健司

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
特別課題研究Ⅰ	秋期	1	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載 ・ 究明したい現象を臨床心理学的に位置づける能力を身につける。 ・ 研究テーマに関連する先行研究を検索し、研究テーマとの異動を検討することができる。 ・ 研究テーマを表現するための方法論を身につける。 ・ 研究テーマを論理的に論述し、論文を作成することができる。 ・ 研究テーマをプレゼンテーションすることができる。	通常の心理学的実証研究の手続きを正しく踏襲して、着目した心理学的現象を科学的に描写できるよう指導した。具体的には、目的と仮説を設定し、これらを検証できるためのデータ収集方法を検討し、収集したデータを分析して結果を読み、考察するという研究デザインを組めるよう指導した。 受講生の特性やペースに合わせてながらも、心理学的実証研究を行うために必要な手続きを確実に踏んで修士論文を作成し、プレゼンテーションできるよう指導した。
特別課題研究Ⅱ	秋期	1	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・ 研究課題を明確にし、課題に到達するための計画を立てることができる。 ・ 研究課題を達成するための方法を検討し、実施することができる。 ・ 研究課題に即した分析を実施し、修士論文を作成することができる。 ・ 作成した修士論文に基づいて、明瞭簡潔にプレゼンテーションすることができる。	受講生の特性やペースに合わせてながらも、心理学的実証研究を行うために必要な手続きを確実に踏んで修士論文を作成し、プレゼンテーションできるよう指導した。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 佐々木美恵

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理査定演習Ⅰ	春期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・大学院修了必須科目のため (複数回答) ・施設内外の実習を行うにあたって必要な知識であると考えたため。 ・臨床現場で求められるスキルを習得・向上させるため。 ・今後臨床活動を行う上で、心理検査などをとる必要があるため。事前によく学習しておくため ・心理検査をフルサイズできちんと体験したことはなかったため、興味深く感じ、履修しました ・臨床家として社会に出るにあたって必要な知識であると考えたから。 </p> <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・現場での実践を見据えることができた (複数回答) ・個別の心理検査(田中ビネー式、K-ABC II、WISC-V) について、テスター、テストイを経験し検査結果のまとめ方、視点について理解できた。研究論文で記述される検査の目的、結果の見方、分析の仕方を学び、理解が深まった。 ・心理検査を検査者・被検査者どちらの立場からも経験できたことはとても貴重な経験となった ・これからの臨床家としての自分に大変役に立ちました。学部の際は心理検査の概要しか知らずどのような手続きで行うのかどのように算出するのか全くの無知だった為、この授業にしっかり取り組めて良かったと感じました。さらに所見書の書き方の指導までして下さいととてもやりがいのある授業でした。 </p> <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・満足できた (複数回答) ・経験したことのない心理・発達検査を実際に行うことができ、技術向上させなければならぬと感じた。 ・心理検査の報告書の丁寧な添削を通し、正しい文言や得点の解釈を身につけることができた。 ・検査の内容を知らないうちに被検査者を体験できたことは今後絶対にできない経験の為、充実した経験ができた。 ・個別で指導をして下さったおかげで、自分の癖やまとめづらいつら感を感じるところも直接相談ができた。また、M1 同士でのテスター体験のおかげで助け合いながら学びあいながら心理検査についての理解が深まったように思う。 </p> <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・検査自体が理論的に高度・専門的で、改訂が重ねられている場合が多く、それぞれの検査について、マニュアル以外に基本書を指定頂き、それをベースに学びの時間が取れたらよかったですと思う。専門用語・指標の定義、あるいは児童にも理解できるわかりやすい定義・説明の仕方、CHC 理論の詳細などについて、講義を受けたかった。情報センターの図書は古かった。 ・検査を二人組ではなく全体の中で観て評価したり、まとめ方を個人で行うのではなく、全体で評議する時間もとって、検査の方法、評価、まとめの統一感を持ちたかった。自信のないまま、報告書が作成され、後輩には参考にならないような気がした。個人の検査報告については、先生の一回の添削で済ませられてはいかかかと思った。 ・所見書の添削が入ることが大変ありがたく勉強になるのですが、最終添削の際にはもう少し具体的なアドバイスをいただけるとより身につくように思いました。また、検査者のベアに関して、本人たちの熱量によって実施の方法が全く異なるのが気になりました。 ・特になし (複数回答) </p>	<p>・各種知能検査の理論と方法論をまずはしっかりと理解してもらうことを第一の目的として、指導を行った。資料の改訂も行い、わかりやすさを重視するとともに、学習内容の充実を図った。基礎の形成という意味では、一定の成果を得たと考えている。</p> <p>・一方で、心理検査報告書の到達度を高める点において、学生に不全感を残した部分もあったようである。今年度は個別指導をベースに行ったが、方法論について、あらためて見直しと検討を図りたい。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 佐々木美恵

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理学特論Ⅱ	秋期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目だから (複数回答) ・ 公認心理師、臨床心理士を目指す上で、受験条件および個人の資質向上に必要なため <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直接的には関連しないが、研究の対象者へ介入を行う際のパーソナリティ理解に役立った ・ アイデンティティについての研究をしているため、分析的な視点は大変参考になった ・ それぞれの疾患等をより深く学べる点は、研究においても視野を広げることに繋がったように思います。 しかし、研究というよりも臨床現場で役立てられそうな印象が強かったです ・ クライエントの状態像を、部分対象・全体対象のどの対象関係の位置付けにあるかという視点をこの講義で獲得出来たと感じています。対象関係論的な視点で考えると、クライエントの臨床像をより鮮明に理解できるように感じたので、その部分を今後の臨床に活かしていきたいと考えています ・ アタッチメントの大切さ、その後の生育、心理的支援の方法について、研究に役立った <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足できた (複数回答) <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし (複数回答) ・ なかなか各オリエンテーションを深く理解する講義はないため、精神的解釈の講義をもう少し回数多く行っていただきたかったです。事例等がありながら、解説していただけると、より理解できたように感じます ・ 実際の臨床ケースについて、精神力動的な支援の考え方、実際に学びたかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神分析的オリエンテーションに基づく心理面接について、その理論的考え方や方法論に関する講義を行った。同時並行的に臨床心理基礎実習Ⅱが展開されているため、実習科目との連動によって学習効果を高めることを意図した。結果として、講義と実践の相乗効果で、学びの深化と定着につながったと考えている。 ・ 臨床心理学における今日のかつ重要なトピックを選定して学習し、院生が視野を広く、深くもてるような指導を心がけた。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授・講師
氏名 藤枝 静暁・伊里 綾子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理基礎実習 I	春期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院修了必須科目のため（複数回答） ・施設内外の実習を行うにあたって必要な知識であると考えたため。 ・臨床現場で求められるスキルを習得・向上させるため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床家として大変役に立った。純粋なスキルだけでなく、クライアントとどのように接したら良いか、どのようにカウンセリングでより探求を深めるのかを知ることができ大変役に立ちました。 ・カウンセリングスキルについて、ロールプレイングを重ねる中で向上に努めることができた。先行論文を研究する際の、臨床カウンセリングの概要をごく部分的に理解することができた。 ・研究内容とは関連の薄い内容でしたが、前期の講義の中で最も実践的な内容を学ぶことができ、カウンセリング場面で何を考えながら話を聞けばよいのか、その基礎作りができたように感じました。 ・実践を見据えることができた ・実際の現場に出たときの技法として基本を知り、自分のクセを知る機会となりました。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足できた（複数回答） ・回数を重ねるごとに成長していくことを感じられて楽しかった。 ・専門的に学習したことのないカウンセリングの基礎的なスキルを、ロールプレイングやスーパーバイジングを受けることにより、学ぶことができ、満足できた。逐語録や実際の自分の動画を観て、気づくところが多かった。 ・基本的なスキルを満遍なく学ぶことができ、FBやロールプレイを通して実践的な学習へ繋がられた。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院生の悩みごとにもとづくカウンセリングを試行することが多かったのですが、先生自身のカウンセリング、あるいは実際の臨床専門家のカウンセリング動画、あるいは逐語録を踏まえた学びがあったら、モデリングの観点から、さらに良かったと思う。行動変容へと導かれる認知行動療法的なスキルについて、「ヘルピング・スキル」の後半に記載があると理解おり、こちらも学修できたらと思いました（秋期の履修ということでしたら楽しみにしています） ・全体ワークを行うより小グループになって行った方が1人あたりのフィードバックも多く、勉強になる気がしました。テスト前は院生同士のワークよりも対先生で行ったほうが圧倒的に身につくと思う。また、ビデオフィードバックは自分を客観的にみるのにとっても勉強となった為、継続していただけると力がつくと思います。 ・特になし（複数回答） 	<p>・毎回、講義に加えて実技を取り入れ、頭と身体を使って学習できるように、心がけました。学生さんも、関心と意欲を持ち、熱心に参加してくれました。ありがとうございました。</p> <p>・カウンセリングで用いる実践的なスキルに初めて取り組む授業ですので、今後どのオリエンテーションを選択した場合にも基礎となる、基本的かつ重要なスキルが着実に身につけられるよう心掛けました。今年度からビデオフィードバックを導入しましたが、学生にとって多くの気づきにつながったようですので、来年度以降も積極的に取り入れていきたいと考えています。モデル提示についても、実際のケースの例を提示するなど、来年度以降工夫してみたいと考えております。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 准教授
氏名 米村 朋子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
データ解析法特論	春期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> これから研究をして行くにあたり統計ソフトを使う力やデータを読み取る力を付けるため。 修士論文作成のために、データ解析の知識が必須と考えたため。 分析が苦手であり、復習になると考えたため。 公認心理師資格取得にあたり履修が求められる科目であったため。 修論執筆にあたり、必要な心理統計の知識を身につけるため。 統計分析能力を身につけたかった。 院試の勉強のときから高い壁を感じており、だからこそ大学院でも学んでみたいと思ったため。 心理学論文を書く上で避けては通れない内容であるにも関わらず、学部ではあまり深く掘り下げて学ぶことができず、力をつけるため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分析において HAD や SPSS だけでなく R まで使い方と読み取り方を教えていただき、学部の際にあまり統計とかかわっていなかった私にとって大変有意義な役に立つ時間でした。 データの分析方法、統計の手法を幅広く学ぶことができ、今後の研究に大変役立つと思いました。 使用したことのないツールの利用方法等が学べた事で、研究に使えるものを考えるきっかけとなった 自身が使用予定の分析や、今後使用するかもしれない分析について学ぶことができたため、どのような分析が適切かを考えることができるようになった。また、データの読み取り方なども詳しく解説していただいたため、先行研究への理解が深まった。 統計の分析を取り入れるうえで大変参考になった。 心理学論文を書く上では避けては通れない内容であるにも関わらず、学部ではあまり深く掘り下げて学ぶことができなかったため、力をつけたいと思いました。 自分の現在考えている研究にはどんな分析方法が適切であるかということ具体的に考えながら計画を進めているわけではなかったのですが、研究の土台の段階から分析方法を想定することが重要であると教えていただいたことで、自分の研究計画を見直す良い機会となりました。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業資料も進め方も大変わかりやすく、統計が苦手な私でも楽しい授業時間を過ごす事ができました 詳細なたくさんの資料・データを提示いただき、それに基づき学習を進めることができ有益だった 実際に分析を行う事で、分析の流れや躓くポイントなどを事前に体験できたことが特に良いと感じた 自分の現在考えている研究にはどんな分析方法が適切であるかということ具体的に考えながら計画を進めているわけではなかったのですが、研究の土台の段階から分析方法を想定することが重要であると教えていただいたことで、自分の研究計画を見直す良い機会となりました。 毎週、非常に充実した内容で、非常に満足しています。 分析の手順や結果の読み取り方だけでなく、論文に記載する例文や書式等も紹介して下さった事が非常に有難かったです。修士論文を書く上で配布頂いた資料には幾度となくお世話になると思います 分析の手順や結果の読み取り方だけでなく、論文に記載する例文や書式なども紹介して下さった事が非常に有難かったです。修士論文を書く上で、配布いただいた資料には幾度となくお世話になると思います。 満足した (複数回答) <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 駆け足感が強く、演習などを含め、春期に加え、秋期にも、選択制でいいので、年間ベースでの授業を設定していただきたい。 授業の進行がやや早い回があったが、内容を加味すると仕方ないと思う。 特になし。(複数回答) 	<p>本科目は、実証的な心理学研究を行うために必要な「データ解析スキル」を確認及び向上させることを目的として、演習を中心に実施した。シラバスをベースに、学生のレベルに対応した内容に随時修正を加えながら、例えば、未経験の解析手法に取り組みせるなどの要素を増やし、解析の応用力を身に付けてもらうような演習とした。結果、学生の積極的な参加が得られ、最終課題（レポート）の評価も含め、到達目標の 80%以上が満たせたと考えている。</p> <p>授業アンケートから「複数の統計ツールに触れられたメリット」に関するコメントが得られ、本科目の学修の狙いが伝わったことが確認できた。ただ、科目で扱うべき内容の多さや複雑さから、得手不得手の個人差が表面化し、各自に応じた適切な速度・内容での指導が行き届かなかった部分もあったため、今後の課題としたい。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師
氏名 佐藤 洋輔

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理学研究法特論	春期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修論に取り組むにあたり必要な知識を身に着けたいと考えたため。(複数回答) ・質的研究について詳しく聞くことができると聞いたため、学びを深める目的で履修した。(複数回答) ・学部の中から研究法の理解が甘く、再度復讐をしたいと思います。(複数回答) <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までなんとなくしか理解していなかった研究法が具体的な手法・事例と照らし合わせて理解することができ、自分の研究の今後についてより具体的に考えることができました。 ・質的研究法を今までより深く学ぶことができ、自分の研究に合う研究法を精査することができました。 ・自分が量的研究をやるとしたら、どの手法が利用できるのか整理することができるようになった。また、論文を読んでいるときの分析の意味が以前よりも理解できるようになった。 ・分析方法に関する視野が広がった。 ・研究法の全体と各論的な個別の方法について、実際の論文発表も含め勉強でき、修論の作成に活かせる。 ・自分が行う予定の分析や、主要な分析への知識が深まった。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な講義資料と説明でわかりやすく、苦手な内容でもすぐ理解できた。(複数回答) ・KJ法など実際にやってみることができたので、分析の手法を具体的にイメージできたのが身になった。 ・満足した(複数回答) <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明がとても聞きやすくわかりやすかった。 ・話し合いや意見を共有する時に色々なメンバーと出来た方が面白かった。 ・小グループでできるのはやりやすかった。 ・パワーポイント資料(原文掲載)で字が小さくて読めない場面があり、識読可能な大きさにしてほしい。 ・特になし(複数回答) 	<p>本授業の目的は、臨床心理学研究において用いられる様々な方法論について、実際的な研究論文への理解や授業内ワークを通して学びを深めることであった。また、本授業は修士論文執筆に求められる基礎的なスキルを身に着けるための授業であることから、受講生一人一人が自身の修士論文で取り組む研究テーマについて、①自身の明らかにしたい疑問は何か、②疑問を解決するための適切な方法論は何か、③先行研究ではどのような方法論が用いられているか、また先行研究における課題および改善点は何か、を考える機会を提供することを意識し、次のような工夫を行った。</p> <p>第一に、受講生が自身の研究テーマについて言語化し、互いに発表を行うワークを導入した。この点については、授業アンケートの結果からも、自身の取り組みたい課題は何か、そして課題を解決するために必要となる研究の方法論、そして分析方法は何かを学生一人一人が考える機会となり、本授業の目的を達成することが出来ていたと考えられる。</p> <p>第二に、各回においてテーマとなる方法論を定め、それぞれのテーマについて学生が実際の研究論文を批判的に精読し、先行研究から得られた新たな疑問点についてディスカッションする時間を設けた。授業アンケートの結果より、このような工夫を行ったことで、量的研究法・質的研究法をバランス良く学ぶ機会を提供し、様々な臨床心理学的研究法について知識だけでなく、自身の研究課題において実践するための応用力を養うことが出来たと考えられる。</p> <p>授業アンケートから考えられる本授業の改善点としては、授業内でのグループワークの導入に関する点が挙げられる。本授業ではディスカッションへの積極的な参加を促すため小グループでのワークを主に導入したが、このことにより、特定の学生と十分に議論を交わせなかったり、多様な意見に触れる機会が損なわれてしまった可能性も考えられる。そのため、今後は、各グループで出た意見を全体で再度取り上げ、さらなるディスカッションを促すなど、学生全体で議論を行えるような工夫が求められると考えられる。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 藤枝 静暁

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理学研究法特論	春期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師資格指定科目であったから (複数回答) ・進路が教育領域であり、教育心理学をより詳しく学びたいと考えた為 ・公認心理師のカリキュラムで必須な為、また SC になりたいと考えているため、具体的な SC の心構えや教職員方への対応を知りたかったため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容に役立ったかは分からないが、実践を見据えることができた ・学校の教育現場での不適応行動について、研究論文、またロールプレイングを通じて心理的支援のあり方を学ぶことができました。行動分析的な観点から介入に関する研究を進めていくうえで、示唆を得ることができました。 ・私の研究は教育の内容とは関連の薄いものですが、実際に教育現場で行われている研究や注目されている問題を知ることができ大変参考になった。 ・学校で行われている実証的な研究について学ぶことができたため、修論の問題にあたる部分を深く考えることができた。 ・研究というよりかは、実際の現場に自分が心理職として就いたときにどのような現実が待ち受けているのか、また支援は何ができるのかを考えるきっかけになりました。 ・私は心理教育をテーマにしているので実際に SC が心理教育を行うことがどれほど難しいか、学校に受け入れてもらいやすいかを考えるととても良い機会になった。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の教育現場における研究論文の読み込み、グループディスカッション、保護者としての体験談の聞き取り、ロールプレイングは多彩で、自ら多くを考える機会となり、満足しました。 ・一つの答えを出すことが難しい対人関係の問題について、考え、話す時間をたくさんとってくださったことで、普段は「難しいなあ」で終わらせてしまっていた思考を深掘りすることができた。 ・講義後半では、サイコドラマ等を通じた学習ができた為、臨床的にも良い学習へと繋げることができた。 ・前半はグループワークとロールプレイで、院生の中でも問題の取り扱いに差があるのだと知ることができ、これは職種の異なる教師とズレが生じてしまうのうなずけるなど感じ、教師の立場で考えるとどうなのかという視点を持つことの大切さを改めて感じました。また後半のサイコドラマは登場人物役と心の声役どちらも演じましたが、不登校という1つの問題についてもたくさんの人物がそれぞれ複雑な感情を持っていることが身にしみてわかりました。実際はもっと複雑だとはいえ、これから SC を目指す上でとても良い経験になりました。 ・満足できた (複数回答) <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを行う際に、院生同士になる空間は非常に進めやすかった。また保護者の方からお話を伺うことができたのは学びとなりました。サイコドラマも深く考察するきっかけになるように感じます。一方、いつもチームが固定であったため、変化があるとより深い検討ができるように思った。 ・特になし (複数回答) 	<p>幼稚園～高校までの学校現場で起こっている課題、それに対して何が行われているか実情を学ぶことを主としております。</p> <p>前半、後半で内容・方法を変え、知識の学習と体験の両方を目指しました。</p> <p>感想をみますと、いろいろ気づき、得るものがあったようで、ホッとしました。皆さんが積極的に参加したことによると思います。</p> <p>チーム編成についてのご意見、ありがとうございました。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 藤枝 静暁

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
グループアプローチ特論	秋期	6	<ol style="list-style-type: none"> この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> 必修科目だから（複数回答） この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか <ul style="list-style-type: none"> 直接研究とつながることは多くはなかったが、実践的な内容が豊富で臨床場面で活かせることを多く学べた s s tでの流れや押さえなくてはいけないポイントを知ることができた。またロープレを通して、より実践的な理解を深めることができたように感じる 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> 満足できた（複数回答） この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> 特になし（複数回答） 	<p>ワークですので、演習をメインにしました。</p> <p>初めてのSSTだったと思いますが、各自、考えたり、工夫をして取り組みました。</p> <p>ファシリテーターを担当することで、進行、調整役も経験したと思います。</p>
特別課題研究 I	秋期	2	<ol style="list-style-type: none"> この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> 必修科目であること、修士論文を執筆するため。 必修科目のため。 この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 <ul style="list-style-type: none"> 至らない点が多くあったが、丁寧に指導をしていただけたため、研究の進め方や先行研究の収集方法を習得できた他、基礎的な文章能力が向上した。現時点までにおける研究の質が向上した。 研究を行うにあたってのルールや書類の書き方、自身のやりたい内容を研究に落とし込む方法を知ることができた。 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> とても満足できた。 大変満足 この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> 特にないです。わかりやすく、ためになる指導をありがとうございました。 いつも手厚いご指導をありがとうございます。些細なことであっても一緒に検討していただける安心感から、すぐに相談しやすい環境にあると思います。 また、体験的な学習を多くいただけることも非常に勉強となっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 	<p>修士論文の作成は時間と手間がかかります。</p> <p>さらに丁寧さが求められます。</p> <p>できる限りのサポートはしますので、一緒にがんばりましょう。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 藤枝 静暁

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
特別課題研究Ⅱ	秋期	3	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・ 修士論文作成のため (複数回答) 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・ 現場の視点から研究課題等を考えることができました ・ 先生のご協力や指導を頂き、大変役に立ちました 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・ 満足できた (複数回答) 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・ 特になし (複数回答)	2年間、コンスタントにコツコツ頑張りました。 自分が研究したかったことができたのではないのでしょうか。 真剣に取り組む姿勢は、後輩や我々教員にとっても良いお手本になりました。 ありがとうございました。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 客員教授
氏名 古曳 牧人

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
犯罪・非行心理学特論	春期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師資格指定科目だったため。(複数回答) ・公認心理師として活動する上で求められる知識を身につけるため。 ・司法領域について学べる機会は少ないので取ろうと思った。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の背景を考えること ・犯罪を犯す、もしくは犯しやすい子どもたちの要因やそのリスクを知ることができ、子供の犯罪予防的視点が勉強になった ・犯罪の発生要因などを見ていく姿勢から、地震の扱う問題の捉え方が緻密になった。 ・犯罪心理、再発防止の理論、対策について理解できた。修士論文とのかかわりについては、発達障害や環境とのかかわりとは別に、向社会的な自己否定間、自己効力感をどのように育むことができるか考察できた。 ・条件付け理論などが司法領域でも活かされていることを知り、他の領域と関連付けで学ぶことができた。踏み込みづらいイメージがあったが、良い意味で改まりました。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足できた(複数回答) ・実際に起きた事件や、行政の構造などから説明いただけたので、具体的にイメージしやすかった。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時々授業のつながりが見えづらい所があったので、関連をさらに説明してもらえるとよかった。 ・レジュメの配布を増やして、板書があるとよかったと思った。 ・院生同士のディスカッション、問題(公認心理師)や課題提起があると参加意欲が出てよかったと思う。 ・環境音が影響しやすい教室であったこともあり、先生の声が聞き取りづらいことがありましたので、工夫していただければ有難いと思います。 ・特になし(複数回答) 	<p>公認心理師科目であり、これまでほとんどの院生が受講しているが、公認心理師主要5領域の中でもあまり関心が強い領域ではないため、公認心理師試験対策を考慮しながら、授業外学習の負担が過大にならないように工夫している。</p> <p>授業アンケートの結果を見ると、おおむねこちらが授業で伝えたいと意図した部分は理解されていると思われる。</p> <p>本年度の受講生は、受講態度はまじめであったが、例年に比べて大人しく、授業内での発言や質問が少なかった。今後は、アンケート結果にあるように、ディスカッションの機会を設けることなども検討したい。</p> <p>内容に関しては、もともとあまり体系的な領域ではないため、つながりを説明することが難しい面があるが、工夫していきたいと考えている。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 安崎 文子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
犯罪・非行心理学特論	春期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師資格指定科目であったから (複数回答) ・公認心理師として活動する上で必要な知識を学ぶため。 ・将来SCになりたいと考えている為、将来かわることになる障害をもった子どもたちへの適切な対応を知りたいと考えたからです。 ・福祉領域の講義はこれまであまり積極的に受講してこなかったため、大学院では関心をもって取り組みたいと思い、受講しました。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役立ったかは分からないが、試験対策や実践を見据えることができた ・障害を抱えた児童生徒にどのような困り感があるのか、また心理師ができる支援としてはどのような適切なものがあるのかを改めて整理するきっかけとなりました。また、一つひとつの障害に対する法律に関しても整理できる機会となりました。 ・修論執筆にあたって自分が扱いたい変数が社交不安の要素を含んでいるので文面的だけでなく臨床現場から見た上で緻密に問題を扱えるようになった。 ・心理的支援を必要とする発達障害・精神障害等の詳細を学ぶことができ、発達課題等の研究に資することができた。 ・臨床現場でのお話や資格試験のお話は将来心理職として働く上で大変参考になった。 ・私の研究内容は医療や福祉の分野とは関連が薄いものの、様々な疾患を臨床例と共に紹介して頂くという有難い機会を提供して頂き勉強になりました。 ・公認心理師試験に必須の分野だと思うので、今後も勉強をつづけていきたいと思う。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料も情報量が多く、読み返してもわかりやすいものである点は大変ありがたかった。実際の検査に触れる場面や映像での学習はイメージを持ちやすく、学びやすかった。 ・特に発達障害などの領域は、自分の進路においても密接に関わってくる問題なので、網羅的に学ぶことができ将来にも役立てられると感じた。 ・詳細なたくさんの資料を提示いただき、勉強になりました。 ・授業の内容や資料の詳しさには非常に満足でした。 ・進路としてSCを希望している学生が複数いる中で、「SCは儲からないからなるもんじゃない」というようなご意見を繰り返しいただいたことは、現実的な立場からのご意見として非常に参考になったものの、個人的には終始わだかまりの残る点でした。 ・臨床的なお話や資料等わかりやすく満足した (複数回答) <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時々、テーマに沿った動画を観ることができて心に残りました。もう少し進度を落としていただいて、現場・実際を知ることのできる視聴覚資料の提示を増やしていただけたらよかったですと思いました。 	<p>1. 当該授業に対し、臨床家として必要な知識・アセスメント方法などについて、実際の症例をあげながら説明することを心掛けた。資料や症例の話は、今後も更に充実させたい。</p> <p>2. 授業内容とは異なる感想を持ち込んだことや、学生の名まえをなかなか覚えられなかった事で、学生に不快な思いをさせたことは、私の未熟さです。</p> <p>3. 身体の不調に対してコンプレックスを持っていることはわかりませんでした。今後気を付けたいと思います。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師
氏名 中谷 隆子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
学校臨床心理学特論	春期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士資格指定科目であったため。 将来SCになるにあたって、教科書的なお話だけでなく、現実に沿ったお話も聞きたいと考えたため。 必修科目だったため。 SCになることを視野に入れているため。 必修授業かつ学校現場の心理職に対して、将来的に興味関心があるため。 公認心理師として活動する上で必要な知識を学びたかった為。また、将来の進路や研究テーマが学校関連・教育関連であることから、特に関心が強かったため。 必修科目のため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理論だけでなく実践に関する重要性が役に立った。 法で定められていたり、教科書で正しいとされている対応があっても、組織の中で動くことの難しさや、一人の働きがけでできることの限界を学ぶことができました。 学部のころから通して、パワーポイントで発表をしたことがなかった為、今後の発表会などで発表をする際の練習となりました。 研究内容は教育の分野とは関連が薄いですが、授業の中で学んだ実践的な理論の数は今後臨床現場で活かしていきたい。 講義からは学校の体制や制度のこと、各自の発表からは今問題を知ることができ、修論のヒントになることが多くあった。 学校現場で発生する諸問題についての知識が得られ、修論執筆にあたっての助けとなった。 学校の教育現場の現状・課題を講義・授業・院生の発表から学び、心理職として任うべき期待される役割を知り、修士論文の中で子どもたちの抱える悩みについて参考とした。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段は聞けないような裏話や職業のリアルなお話を聞いて楽しかった。 前期の(講義形式の)講義の中では最も主体的に学べてよかった。 ディスカッションが多かったことから、自分だけの学びで終わらず、周囲の意見や考え方等を知ることができた点が特に良かった。 親しみやすく、明るい先生のキャラクターを反映した授業だった。 満足した(複数回答) <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワークを小グループにして頂き、とても話しやすい雰囲気の中で参加することができた。人数も増えている為、話し合いや発表での意見交換は小グループの方が平等に参加しやすいと思う。 現場の声や、実習等があると嬉しかった。 特になし(複数回答) 	<p>学校という場における臨床心理学的支援に関する知識や技術について、教員から学生に向けた一方向型の講義形式ではなく、教員と学生による双方向型の授業を心がけた。</p> <p>具体的には、講義中に質疑応答、グループディスカッション、ディベートの時間を多く設けることにより、学生が主体的に考え、積極的に授業内容を理解し定着できるよう促した。</p> <p>また、学生が現代の学校現場における臨床心理学的課題について自らテーマを選び、自身の見解について探究学習を行い、パワーポイント資料を作成し、発表する課題を設けた。これにより、学生が課題を自ら発見し、その解決方法を模索し、自身の主張について論理立てて他者へ伝わる説明を行う資質や能力を育むことができたといえる。さらに、発表後に教員を含む他受講生と共に質疑応答の機会を設けることにより、教員側の視点のみならず、多角的な視点でもって授業内容や自身の発表について改めて振り返り、学習を深めることを促した。</p> <p>また、毎回の講義後に各学生の感想や疑問について Forms を利用して収集し、次回授業冒頭でフィードバックを行うことにより、受講生の疑問を解消し、学習した内容を定着化する機会を提供した。</p> <p>最後に、講義担当教員自身の臨床心理学的支援の実践経験に基づき、授業内容に関連する実践的知識や技術を盛り込み、受講生が体験的に学習できるよう工夫した。これにより、受講生は書籍や文献を通して得られる知識のみならず、より心理臨床現場で利用・活用できる技術を身につけることができたと考えられる。</p> <p>以上の工夫により、授業アンケートの「ディスカッションが多かったことから、自分だけの学びで終わらず、周囲の意見や考え方等を知ることができた点が特に良かった」「パワーポイントで発表をしたことがなかった為、今後の発表会などで発表をする際の練習となりました」「理論だけでなく実践に関する重要性が役に立った」など、満足度の高い感想を得ることができたと考えられる。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 准教授
氏名 泉水 紀彦

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理面接特論Ⅱ	秋期	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目だから 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究よりも臨床で扱えるような療法を多く学ぶことができた 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・満足できた 4. この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<p>心理師の業務である「面接技法」に関する様々な知識や実践を行う科目であった。知識の理解をすでに行っていることを前提に、実際に様々な技法を体験的に学び、自分自身が実施者として行えるようになることを目的とした。</p> <p>催眠、フォーカシング、自律訓練法、マインドフルネス、ペアレントトレーニング、プレイセラピー、箱庭療法を体験的に学び、体験を言葉にして、臨床場面で導入できるように説明する力をつけてもらった。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師
氏名 伊里 綾子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理査定演習Ⅱ	秋期	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・必修科目だから (複数回答) 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・研究よりは、現場で必要となる重要なアセスメントツールの1つについて時間をかけながら学ぶことができた。 ・将来、検査をとる場面は多くあると想定されるため、検査者側としてもその解釈をする側としても知識を得たと思います。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足できた (複数回答) 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし (複数回答) 	<p>本演習においては、ロールシャッハ・テストについての基礎的な実践方法を指導するだけでなく、ロ・テストの指導を通して、様々な心理検査におけるテスターとしての心構えも指導できるよう心掛けました。さらに、自身の検査結果について解釈し、報告書を仕上げることで、自己理解を深め、今後支援者としての自分とクライアントの間で生じるだろう葛藤などどう向き合うかについて考えるきっかけを提供できるよう工夫しました。</p> <p>学生は皆、自身の結果の解釈に真摯に向き合い、自身の長所および課題を見出していたように思います。</p>

教員の授業報告

心理学研究科

職名 教授

氏名 佐々木美恵・大川 一郎

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理基礎実習Ⅱ	秋期	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・必修科目だから 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・研究よりも臨床で活かせる内容を豊富に学べた 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足できた 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし 	<p>心理面接の一連のプロセス（インテーク、アセスメント、治療契約、面接記録作成）について、教員の実際的手法を織り交ぜながら実践的に指導することを意識した。</p> <p>臨床実践における各自の課題を明確にし、学内外実習への導入となるような指導を心がけた。</p> <p>アセスメントの理論、実際、演習等を行い、アセスメントについて理論に基づいて実践上の理解が深まるような指導を試みた。</p> <p>心理テストの標準化について、田中ビネー知能検査の標準化の実際のプロセスを例に取りながら講義し、心理テストの成り立ちまで意識しながら心理テストを用いたアセスメントを実施するよう指導を心がけた。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 古澤 照幸

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
人間関係学特論	秋期	2	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・人間関係学の基礎理論や人間関係の発達の側面を理解する ・人間観関係の支援の方法として、グループワークやロールプレイングを通じて人間関係づくりのための支援方法を習得する	人間関係学に関して、専門的な観点から、高度な診断尺度についての専門書を読みこなし、受講生には、発表を行わせ、教員と議論を行った。内容は、理解するには、困難な点もあったが、授業のなかで理解をしやすくするための解説をし、学生との議論を十分に行った。課題レポートも優秀であり、学生により指導ができたと考えている。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 客員教授
氏名 山本 晴義

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心身医学特論	秋期	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目だから 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・クライアントへの理解についてはもちろん、自分自身にも目を向けられるような貴重な時間であった 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・満足できた 4. この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<p>臨床心理士として公認心理師として、将来、実践で役立つ「心身医学」の知識等について、受講生の反応を見ながら解説した。毎回、授業に関するレポートの提出を義務化し、学習状況および修正箇所等について、返信レポートを作成した。</p> <p>全体的に、まじめな院生で、こちらの指示に対して、適切な回答をよこしてくれた。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 客員教授
氏名 柴田 勲

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
精神医学特論	秋期	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・必修科目だから (複数回答) 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・研究より、精神疾患の理解やその対応など臨床面で発揮できる知識を多く学べた ・研究というよりかは、医学的知識を改めて補うとともに医薬的な情報を学ぶ機会となった 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足できた (複数回答) 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・宿題として、何度か薬を調べてくることがありましたがやや難しすぎると感じたため、もう少しヒントを提示していただけると助かります 	<p>受講者の学習意欲を高める為に初回の講義の際、関心のある分野について聞き取りを行い、そこに関してはより深い内容で講義を行った。実際には薬理と不安症に関しての関心が高く教科書には記されていない臨床現場での生の話を絡めながら包括的な講義を行った。アンケートからも受講者の満足度は高かったと思われる。他の分野に関しても我々の身近で起こっている事柄と関係付けながら講義を行った。来年度も同様に受講者のニーズにあった講義に努めたいと考えております。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 准教授
氏名 遠藤 寛子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
健康心理実践特論	秋期	6	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目の為 (複数回答) ・公認心理師カリキュラムに含まれる科目であるため <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の理論や変数を考えさせられ、臨床場面でも応用できる内容を学ぶことができた ・先行研究が多くあったことから根拠を持って理解することができた。また、考える時間があったことで、より深い学びになったと感じる ・遠藤先生ご自身の研究や、テーマに基づいた様々な先行研究などを取り扱っていただいた。私が行っている研究と重なる部分があったため、講義内で紹介していただいた知見を参考にすることができた <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足できた (複数回答) <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終発表の時間を詳細に伝えていただきたい。今回は10分程度という指示であったが、当日は10分以内ということになっていた気がした ・特になし (複数回答) 	<p>毎回、授業テーマを明確にし、研究のみならず、アセスメントならびに実践に役立てられるように資料を準備した。</p> <p>また、ディスカッションの時間もとり、内省を深める機会を設けたとともに学生が疑問に思っていること等を随時、回答できるように工夫した。</p> <p>興味関心が持続するように最新の知見を紹介し、健康観が変化していくプロセスを考察して頂いた。</p> <p>今後も、学生たちの研究意欲を維持し、臨床現場に役立てられるようにディスカッションを取り入れて授業を進めたいと考えている。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 准教授
氏 名 川久保 惇

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
産業・組織心理学特論	秋期	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・必修科目だから（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・自分の研究について深く考える時間があったので、とても役に立った ・自分が調査を行う際の分析方法に目処がたち、そのやり方をイメージすることができた 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足できた（複数回答） 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし（複数回答） 	<p>産業・組織心理臨床とは働く全ての人を対象として、人が働くことに伴うさまざまな問題を整理し、その解決を支援していかうとするものである。本講義では産業・組織心理学などにもとづく理論を理解するとともに、働く人のメンタルヘルス問題、ストレスチェック制度や職場でのメンタルヘルス対策などについて考える機会を提供することを目的とした。</p> <p>講義では主に、産業・組織心理学に関する最新の論文の輪読を受講生全員で行った。学生が順番に用意してきた資料をもとにディスカッションをすることで、研究や実践を行う上で必要な考え方、高度な専門的知見、ならびに研究スキルを身につけることを目指した。教員主体の講義形式ではなく、受講生自身の関心のあるテーマについて主体的に紹介することを重視した。論文に関連する基本事項については、教員が解説することで内容を補足した。</p> <p>学生からのアンケート内容を見ると、満足した、役に立ったという記述が多かった。そのため、次年度も同様に、学生主体の講義運営を心がけていきたい。また、論文を輪読するだけでなく、研究の実施方法やデータのまとめ方、学会発表の手順についても講義内で解説していきたい。</p>

教員の授業報告

心理学研究科

氏名 羽鳥 健司・伊里 綾子
 遠藤 寛子・大川 一郎
 藤枝 静暁・佐藤 洋輔
 泉水 紀彦・中谷 隆子
 佐々木美恵

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心理実践実習A	秋期	6	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・心理支援を要する者のニーズを把握し、アセスメントに基づく心理支援の計画を立てることができる。 ・心理支援を要する者に、適正な手続きによって心理検査を実施し、所見書の作成、およびフィードバックを行うことができる。 ・公認心理師が遵守すべき職業倫理、法的義務を理解することができる。	臨床心理士、公認心理師として、要心理支援者に対する心理支援を提供する際に、必要不可欠な最も基礎的かつ重要な関わり方を身につけるために、学内の附属臨床心理カウンセリングセンターで実習を通して指導を行った。必要な技能を習得させられたものとする。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師
氏名 佐藤 洋輔・中谷 隆子

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心理実践実習B	秋期	6	<p>※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理支援の実践を行う施設における管理運営の知識、技能を説明することができる。 ・心理支援を要する者に対するアセスメントとそれに基づく心理支援の実践的スキルを身につけ、実際の心理支援に活かすことができる。 ・多職種間、地域での連携におけるチームの一員として公認心理師が果たす役割、知識、技能を実践することができる。 ・公認心理師が遵守すべき職業倫理、法的義務、および現場での実際的な対応を理解し、心理支援を要する者と適切に関わることができる。 	<p>当該授業は学外施設における実習を中心とした授業であり、到達目標を達成するため以下の工夫を行った。まず、到達目標の1点目を達成するため、実習の事前指導として学生が福祉・産業・司法の3分野における心理支援の基本的な知識や技能について主体的にまとめ、発表する機会を設けた。</p> <p>そして、実習では計10施設において見学実習および継続的な支援実践実習を行い、支援現場における公認心理師の職責を体験的に理解するとともに、事前指導において学んだ知識や技能を施設利用者との交流の中で実践することを目指した。</p> <p>さらに、実習終了後には事後指導の時間を設け、到達目標の2～4点目について、どの程度実践することができたかとともに、今後の課題について個別にフィードバックを実施した。</p> <p>以上のことから、本授業で目指す到達目標の4点については、いずれの学生も概ね達成することができていたと考えられる。次年度以降への課題としては、本実習への参加が学生一人一人のキャリア構築をより促すことができるよう、学生一人一人との対話を通じて、各分野に対する学生の興味を深め、また実習に臨む上での課題や不安を解消していくことが必要であると考えられる。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 准教授・教授
氏名 泉水 紀彦・羽鳥 健司

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理実習 I	春期	5	<p>※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理支援の実践を行う施設における管理運営の知識、技能を説明できる。 心理支援を要する者に対するアセスメントとそれに基づく心理支援の実践的技能を身につけ、実際の心理支援に活かすことができる。 多職種間、地域での連携におけるチームの一員として公認心理師が果たす役割、知識、技能を実践することができる。 公認心理師が遵守すべき職業倫理、法的義務、および現場での実際的な対応を理解し、心理支援を要する者と適切に関わることができる。 	<p>臨床心理実習 I (心理実践実習)は、学内実習と学外実習から構成されている。</p> <p>学内実習では、附属カウンセリングセンターにおいて、臨床指導教員の指導の下、カウンセラーとしてアセスメント・相談面接を担当した。院生は、多くの事例を担当する中で、教員の指導を受けながら、クライアントの理解を深め、アセスメント・心理支援の技術を習得した。同時に、自分の内面に向き合うことができるように、教員が丁寧に指導を行った。また、センターの運営業務を通して、心理支援の実践を行う施設における管理運営の知識、技能を習得し、公認心理師の職業倫理や法的義務への理解を深めた。</p> <p>学外実習では、保健医療、教育分野において、実習指導者の指導の下、実習を行った。公認心理師の遵守すべき職業倫理・法的義務、多職種連携・地域連携への学びを深めた。また、患者や児童生徒との関わりを通して、アセスメント・心理支援の技術を習得した。実習がよりよくなるように、大学教員、院生、施設側実習指導者が3者で話し合う機会を設けて連携し、授業の改善を行った。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師・教授
氏名 中谷 隆子・大川 一郎

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理実習Ⅱ	秋期	5	<p>※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己都合による欠席は認められない 諸般の事情により出席困難な場合は、事前に申し出て承諾を得ること 実習にあたり、指導相談員への相談・報告を怠らないこと 	<p>本授業は、ケース・カンファレンスでの事例発表に際して、事例発表の留意点、資料作成のポイントを指導し、各ケースにおける発表前事前指導ならびに事後指導を行う。さらに、臨床心理カウンセリングセンターで担当した1事例について、心理面接経過をまとめ、最終レポートとして事例報告あるいは事例研究を提出するにあたり、ケース理解、事例報告（研究）の観点、事例報告（研究）作成について指導することを目的として実施された。左記の具体的な到達目標を達成するため、以下2点について工夫を行った。</p> <p>1点目は、各受講生に1名、チューターとして教員を配置することにより、臨床心理カウンセリングセンターに関わる実習に従事する受講生の状況や生じる困難について細やかに把握し、自己都合による欠席に至る以前に予防的対策を講じることができるよう、また、諸般の事情により欠席がやむを得ない場合に事前に報告しやすい環境や関係性を構築できるように努めた。</p> <p>2点目は、受講生が臨床心理カウンセリングセンターで担当する各事例に対してスーパーヴィジョン（以下 SV）担当指導相談員を配置することにより、受講生が担当事例について定期的に相談・報告することができるよう工夫した。</p> <p>以上により、本授業で目指す2点の到達目標について、全受講生が達成することができたと評価できる。次年度以降の課題としては、ケースカンファレンスをはじめとする実習全般に関する各受講生の疑問や困難に対して、全指導相談員が首尾一貫した指導を施すことができるよう、臨床実習会議等を通して情報共有し、より良い実習を提供できるよう努めることが必要である。</p>

5 研究発表会及び意見交換会

大学院担当教員相互の研究交流を図るとともに、学生及び教員との意見交換の場を設け、今後の大学院の教育研究活動の活性化に資することを目的として次の研究発表会及び意見交換会を実施している。

5-1 研究発表会

日 時：令和5年9月13日(水) 11:00~12:00 (講演40分、質疑応答20分)

場 所：502教室

参加者数：18名(専任教員10名、大学院生7名、学部学生1名)

内 容： 発表者：米村 朋子 心理学研究科 准教授

テーマ：「自分の動きはどこまで正確に分かっているのか？」

—自己運動知覚と視覚運動協応の制御—

5-2 大学院専任教員と大学院生による意見交換会

日 時：令和5年11月22日(水) 16:00~16:15

場 所：心理学実験実習室

参加者数：22名(専任教員12名、大学院生10名)

内 容：

主な意見

- ・学内ならびに学外実習の情報共有のあり方、修士論文の指導時期等について意見が出された。
- ・他に要望等あったら伝えてほしい。要望については、できること・できないことがあるので、大学の担当部署と相談しながら対応していきたい。

5-3 大学院専任教員と客員教員による意見交換会

日 時：令和5年11月22日(水) 16:15~16:30

場 所：心理学実験実習室

参加者数：専任教員12名、合計12名

内 容：

主な意見

- ・実習指導および研究指導に関して、研究科長、教務委員長、臨床心理カウンセリングセンター長、自己点検評価委員長、実習指導教員等が関わり、諸々なことを検討することの必要性が改めて確認された。院生の意見も反映しながら、今後も組織発展のため、教学、学生指導・支援の充実を目指すための体制を強化していく方針で意見がまとまった。

<成 果>

課題研究の進捗状況やその適切な指導のあり方、院生が学修しやすい環境の構築、課題の提示についての基本的な考え方の確認等、活発な情報交換がなされ、それぞれの場面での方策について、よりよいあり方を検討することができている。今後も定期的に継続していく予定である。

6 論文審査について

本大学院心理学研究科では、修士論文作成過程において、1年次の秋期に構想発表会、2年次までに2回の中間報告会を実施することとしている。各個別報告の詳細は次の通りである。

令和5年度の報告会及び最終試験は以下の内容にて行った。

6-1 修士論文中間報告会・構想発表会

(1) 第2回修士論文中間報告会(2年次生対象)

日 時：令和5年6月28日(木) 13:30~16:25

場 所：心理学実験実習室

【第2回修士論文中間報告会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時間	発表者	指導教員
13:30~13:35	研究科長挨拶	
13:35~14:05	22MP0001 梶原 真衣	藤枝 静暁
14:05~14:35	22MP0002 加藤 大輔	藤枝 静暁
14:35~15:05	22MP0003 佐藤ヒジョン	大川 一郎
15:15~15:45	22MP0004 肖 婷	藤枝 静暁
15:45~16:15	22MP0005 西田 修也	羽鳥 健司
16:15~16:25	講	評

(2) 修士論文構想発表会(1年次生対象)

日 時：令和5年9月27日(水) 13:00~16:30

場 所：心理学実験実習室

【修士論文構想発表会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時 間	発表者	指導教員
13:00~13:05	研究科長挨拶	
13:05~13:35	23MP0001 大田 葉月	遠藤 寛子
13:35~14:05	23MP0002 岸野 尚弥	遠藤 寛子
14:05~14:35	23MP0003 杉本 彰緒	大川 一郎
14:45~15:15	23MP0004 宮坂 奈緒	羽鳥 健司
15:15~15:45	23MP0005 谷地 竜二	藤枝 静暁
15:45~16:15	23MP0006 山田 綾夏	藤枝 静暁
16:15~16:30	講	評

(3) 第1回修士論文中間報告会(1年次生対象)

日 時：令和6年2月27日(水) 13:00~16:30

場 所：心理学実験実習室

【第2回修士論文中間報告会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時 間	発表者	指導教員
13:00~13:10	研究科長挨拶	
13:10~13:40	23MP0001 大田 葉月	遠藤 寛子
13:40~14:10	23MP0002 岸野 尚弥	遠藤 寛子
14:10~14:40	23MP0003 杉本 彰緒	大川 一郎
14:50~15:20	23MP0004 宮坂 奈緒	羽鳥 健司
15:20~15:50	23MP0005 谷地 竜二	藤枝 静暁
15:50~16:20	23MP0006 山田 綾夏	藤枝 静暁
16:20~16:30	講	評

6 - 2 学位論文発表会及び最終試験

日 時：令和5年2月7日（火）10：00～12：00

場 所：心理学実験実習室

【学位論文発表会及び最終試験】（口述試験を兼ねる）

時 間	発表者	指導教員	研究テーマ
13：00～13：30	22MP0001 梶原 真衣	藤枝 静暁	強み心理教育が高学年児童の心の健康に及ぼす効果の検討 —子どもが認識する親からの強みへの注目に着目して—
13：30～14：00	22MP0002 加藤 大輔	藤枝 静暁	就職不安への適応プロセス及び就職活動のあり方に関する質的検討 —文学部系大学生のふり返りを通して—
14：00～14：30	22MP0003 佐藤ヒヂョン	大川 一郎	社交不安傾向の大学生の失敗観とコストバイアス、安全確保行動の関連
14：30～15：00	22MP0004 肖 婷	藤枝 静暁	外国人中学生の学校適応に至るプロセスと関連要因の解明
15：00～15：30	22MP0005 西田 修也	羽鳥 健司	大学生のデイリーハッスル水準の対人ストレスに対する利益の筆記の効果
15：30～16：00	審査委員会		

7 おわりに

本年度も無事に9回目の修了生を送り出すことができた。この間の取り組みの成果については、掲載されている学生の授業評価や教員の授業報告にも見る通り、概ね満足のでられる大学院教育が達成できていると評価できる。修了生たちが臨床心理士および公認心理師として現場で活躍し始め、少しずつではあるが、埼玉学園大学のキャンパスに臨床心理学研究と実践の文化が根付きつつあるという感触を得ている。教員自身の研究活動の面でも、特に若手教員を中心に、より活発な研究成果が得られる展開を期待している。

修了生全体の臨床心理士資格取得率は8割以上を超えていること（臨床心理士（合格者25/受験者27）、また公認心理師の合格者も例年輩出している（公認心理師（合格者29/受験者30）ことから、今後も、教員を中心に、今まで以上に積極的に受験準備の支援を行い、在学中から院生が臨床心理士受験および公認心理師受験に向けて必要十分な専門知識と援助スキルを習得できるように指導を徹底していきたい。

埼玉学園大学大学院FD委員会規程

平成22年 5月12日制定

(目的及び設置)

第1条 本大学院に、授業内容及び教育方法を改善し、その質的充実を図るとともに、教員の教育力の向上に資すること（Faculty Development。以下「FD」という。）を目的とし、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任 務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について組織的な推進を図ることを任務とする。

- (1) FD活動の企画立案に関すること
- (2) FD活動に関する情報収集及び提供に関すること
- (3) FD活動についての評価及び報告書の作成に関すること
- (4) 学長の諮問した事項に関すること
- (5) その他大学院のFDの推進に関すること

(組 織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 専攻主任
- (3) 専任教員のうち、研究科委員会より選出された教員 若干名

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員長は研究科委員会の議を経て、学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(会 議)

第6条 会議は、過半数の委員の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事 務)

第8条 委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

附 則

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 この規程施行後、最初に就任する委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成23年3月31日までとする。

令和〇年〇月〇日

大学院心理学研究科
授業担当教員 各位

大学院心理学研究科
FD委員長 大川 一郎

学生向け授業に関するアンケート実施のお願い

埼玉学園大学大学院心理学研究科の授業につきましては、日頃より格別のご指導、ご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和〇年度〇期の授業アンケートを下記のとおり実施することとなりました。

つきましては、アンケート実施の趣旨をご理解いただき、実施していただきたく、ここにお願い申し上げます。

ご負担をおかけいたしますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

記

1. 実施期間 令和〇年〇月〇日～令和〇年〇月〇日
2. 対象授業 講義科目、研究指導科目
3. 実施・回収
 - ・アンケートの実施科目は、履修者が2名以上の講義科目及び研究指導科目を対象とする。
 - ・担当教員は所定のアンケート用紙（人数分）及び回収袋（1袋）を授業終了前の10～20分に配布する。
 - ・担当教員は回収袋にあらかじめ実施日・授業担当者を記入する。
 - ・アンケート実施後、学生自身がアンケートを回収袋に直接入れ、最後の学生に封をするよう指示をする。
 - ・封をした学生に教務課へ提出するよう指示をする。
4. 授業アンケート結果の活用
授業アンケートは集計し、FD活動報告書に掲載する。

以上

授業についてのアンケート（講義科目、研究指導科目）

科目名（ ）

教員名（ ）

月 日 曜日 時限実施

※上記、記載漏れがないようお願いします

大学院の授業の質的向上のために、アンケート調査を行います。下記質問について、自由に記述してください。なお、このアンケートが成績評価に影響することは一切ありません。

<p>1. この授業を履修した理由は何ですか？</p>
<p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか？</p>
<p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p>
<p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p>

ご協力ありがとうございました。

参考資料4

教員の授業報告

心理学研究科
職 名
氏 名

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、 改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)

中間報告会の振り返り

埼玉学園大学大学院 心理学研究科

学生番号	氏名	指導教員名
中間報告会までの準備を振り返ってどのような点が反省点としてあげられますか		
論文指導についての意見は何かありますか		
中間報告会での各教員からのアドバイスは、今後の論文作成において、どのように参考になりましたか。		

※書ききれない場合は、行数を増やしていただいて構いません。